

第94回 簿記実務検定第1級試験問題

原価計算

(制限時間 1 時間 30 分)

1

下記の取引の仕訳を示しなさい。ただし、勘定科目は、次のなかからもっとも適当なものを使用すること。

当座預金	製品	/	級製品	2級製品
第1工程半製品	素材		消費材料	所得税預り金
健康保険料預り金	賃金		従業員賞与手当	健康保険料
製造	第1工程製造		第2工程製造	第1製造部門費
第2製造部門費	材料消費価格差異		本社	工場

a. 個別原価計算を採用している岩手製作所は、製造間接費について部門別計算をおこなっている。次の資料により、製造部門費の当月分を予定配賦した。ただし、直接作業時間を基準として予定配賦している。

	年間製造間接費予算額	年間予定直接作業時間	当月実際直接作業時間
第1製造部門	¥ 6,450,000	15,000時間	1,300時間
第2製造部門	¥ 10,920,000	21,000時間	1,700時間

b. 沖縄工業株式会社は、本月分の賃金を次のとおり小切手を振り出して支払った。ただし、諸手当は賃金勘定に含めないで処理する。

賃金総額 ¥2,173,000 諸手当 ¥462,000
 うち、控除額 所得税 ¥154,000 健康保険料 ¥91,000

c. 青森製作所の素材に関する資料は次のとおりであった。よって、予定価格による消費高と実際価格による消費高との差額を消費材料勘定から材料消費価格差異勘定に振り替えた。ただし、素材の予定価格は1個につき ¥2,540 であり、実際消費単価の計算は総平均法によっており、当月消費数量は2,100個であった。

6月 / 日	前月繰越	400個	1個につき ¥2,500	¥1,000,000
10日	受け入れ	1,000 "	" 2,510	¥2,510,000
20日	受け入れ	1,200 "	" 2,535	¥3,042,000

d. 等級別総合原価計算を採用している鳥取工業株式会社において、1級製品4,800個と2級製品4,000個が完成した。ただし、この完成品の総合原価は ¥4,800,000 であり、等価係数は次の各製品/個あたりの重量を基準としている。

1級製品 300g 2級製品 240g

e. 工程別総合原価計算を採用している秋田工業株式会社は、月末に工程別総合原価計算表を作成し、各工程の完成品原価を次のとおり計上した。ただし、各工程の完成品はすべていったん倉庫に保管しており、当月中に倉庫から第2工程(最終工程)に投入した第1工程の完成品原価は ¥1,945,000 である。なお、当社では第1工程の完成品原価をすべて第1工程半製品勘定に振り替えている。

第1工程 ¥2,670,000 第2工程 ¥3,180,000

f. 工場会計が独立している山形工業株式会社の本社は、工場の従業員に対する健康保険料 ¥762,000 を小切手を振り出して支払った。ただし、健康保険料のうち半額は事業主負担分であり、半額は従業員負担分である。なお、健康保険料預り金勘定は本社のみにて設けてある。(本社の仕訳)

2

福島製作所は、単純総合原価計算を採用し、A製品を製造している。下記の資料と製造勘定によって、

- (1) 単純総合原価計算表を完成しなさい。
 - (2) 製造勘定の退職給付費用（アの金額）を求めなさい。
- ただし、
- i 素材は製造着手のときにすべて投入され、加工費は製造の進行に応じて消費されるものとする。
 - ii 月末仕掛品原価の計算は先入先出法による。
 - iii 正常減損は製造工程の始点で発生しており、正常減損費は完成品と月末仕掛品に負担させる。

資 料	製 造	
a. 生産データ	前月繰越 ()	製 品 ()
月初仕掛品 600kg (加工進捗度50%)	素 材 ()	次月繰越 ()
当月投入 3,900kg	工場消耗品 554,000	
合 計 4,500kg	賃 金 3,171,000	
月末仕掛品 400kg (加工進捗度50%)	給 料 1,342,000	
正常減損 100kg	退職給付費用 (ア)	
完 成 品 4,000kg	健康保険料 240,000	
b. 月初仕掛品原価	減価償却費 438,000	
素材費 ￥1,848,000	電 力 料 86,000	
加工費 ￥540,000	雑 費 73,000	
c. 当月製造費用	()	()
素材費 ￥11,856,000		
加工費 ￥6,864,000		

3

次の各問いに答えなさい。

- (1) 組別総合原価計算を採用している宮城製作所では、A組製品とB組製品を製造している。下記の資料によって、次の金額を求めなさい。
 - a. A組の組間接費配賦額
 - b. B組の月末仕掛品原価に含まれる素材費

ただし、

 - i 組間接費は直接材料費を基準として配賦する。
 - ii 素材は製造着手のときにすべて投入され、加工費は製造の進行に応じて消費されるものとする。
 - iii 月末仕掛品原価の計算は平均法による。

資 料
① 生産データ
A組 完成品3,200個 月末仕掛品300個 (加工進捗度50%)
B組 " 2,600個 " 500個 (" 60%)
なお、どちらの組も仕損および減損は発生していない。
② 月初仕掛品原価
A組 ￥2,390,000 (素材費 ￥1,520,000 加工費 ￥870,000)
B組 ￥2,046,000 (素材費 ￥1,392,000 加工費 ￥654,000)
③ 当月製造費用
組直接費 A組 ￥13,476,000 (うち素材費 ￥8,700,000)
B組 ￥8,829,000 (うち素材費 ￥5,800,000)
組間接費 ￥6,670,000

- (2) 島根製作所では、直接原価計算をおこない利益計画をたてている。当月における下記の資料から、次の金額または数量を求めなさい。
 - a. 当月の営業利益
 - b. 損益分岐点の売上高
 - c. 目標営業利益 ￥2,940,000 を達成するための販売数量

資 料
① 販売数量 1,700個
② 販売単価 ￥2,800
③ 製造費用
変動費 (製品/個あたり) ￥850 固定費 ￥420,000
④ 販売費及び一般管理費
変動費 (製品/個あたり) ￥200 固定費 ￥105,000

(3) 標準原価計算を採用している岡山製作所の当月における下記の資料から、次の金額を求めなさい。

- a. 完成品の標準原価 b. 直接材料費差異 c. 作業時間差異

ただし、i 直接材料は製造着手のときにすべて投入されるものとする。

ii 解答欄の()のなかに不利差異の場合は(不利)、有利差異の場合は(有利)と記入すること。

資 料

① 標準原価カード

A製品 標準原価カード			
	標準消費数量	標準単価	金額
直接材料費	5kg	¥400	¥2,000
	標準直接作業時間	標準賃率	
直接労務費	2時間	¥1,500	¥3,000
	標準直接作業時間	標準配賦率	
製造間接費	2時間	¥1,300	¥2,600
	製品/個あたりの標準原価		¥7,600

② 生産データ

月初仕掛品	200個	(加工進捗度30%)
当月投入	850個	
合計	1,050個	
月末仕掛品	300個	(加工進捗度40%)
完成品	750個	

③ 実際直接材料費 ¥1,722,000

④ 実際直接労務費

実際直接作業時間	1,650時間
実際賃率	¥1,450

(4) 広島製作所における当期(令和〇年/月/日から令和〇年/2月3/日まで)の勘定記録・製造原価報告書・損益計算書(一部)・貸借対照表(一部)により、(ア)から(ウ)に入る金額を求めなさい。ただし、会計期間は原価計算期間と一致しているものとする。

製 造	
前期繰越()	製 品 ()
素 材 1,295,000	次期繰越()
買入部品 320,000	
賃 金 (ア)	
外注加工賃 618,000	
製造間接費 ()	
()	()

製 造 間 接 費	
工場消耗品 270,000	製 造 ()
賃 金 510,000	
給 料 430,000	
健康保険料 170,000	
減価償却費 708,000	
電 力 料 ()	
雑 費 59,000	
()	()

製 品	
前期繰越()	売上原価()
製 造 ()	次期繰越()
6,930,000	6,930,000

製 造 原 価 報 告 書	
広島製作所	令和〇年/月/日から令和〇年/2月3/日まで (単位:円)
I 材料費	()
II 労務費	2,480,000
III 経費	1,897,000
当期製造費用	()
期首仕掛品棚卸高	425,000
合計	()
期末仕掛品棚卸高	542,000
当期製品製造原価	(イ)

損 益 計 算 書 (一部)	
広島製作所	令和〇年/月/日から令和〇年/2月3/日まで (単位:円)
I 売上高	8,820,000
II 売上原価	()
売上総利益	(ウ)

貸 借 対 照 表 (一部)	
広島製作所	令和〇年/2月3/日 (単位:円)
製 品	756,000
仕 掛 品	()

4 個別原価計算を採用している山口製作所の下記の取引によって、次の各問いに答えなさい。

- (1) 6月/3日の取引の仕訳を示しなさい。
- (2) 消費賃金勘定・製造勘定・製造間接費勘定に必要な記入をおこない、締め切りなさい。なお、勘定記入は日付・相手科目・金額を示すこと。
- (3) A製品（製造指図書#1）の原価計算表を作成しなさい。

ただし、i 前月繰越高は、次のとおりである。

素 材	700個	@ ¥2,800		¥1,960,000
工場消耗品	650〃	〃	20	¥ 13,000
仕 掛 品（製造指図書#1）				¥ 936,000（原価計算表に記入済み）
保 険 料（前払高7か月分）				¥ 301,000

- ii 素材の消費高の計算は移動平均法、工場消耗品の消費数量の計算は棚卸計算法によっている。
 - iii 賃金の消費高の計算には、作業時間/時間につき ¥1,200 の予定賃率を用いて計算し、消費賃金勘定を設けて記帳している。
 - iv 製造間接費は直接作業時間を配賦基準として予定配賦している。なお、年間製造間接費予定額は ¥8,700,000 であり、年間予定直接作業時間（基準操業度）は17,400時間である。
- (4) 製造間接費配賦差異における次の資料から、操業度差異の金額を求めなさい。なお、解答欄の（ ）のなかは借方差異の場合は借方、貸方差異の場合は貸方を○で囲むこと。

資 料

- a. 製造間接費については、公式法変動予算により予算を設定して予定配賦をおこなっている。
 - b. 月間の基準操業度（直接作業時間）は1,450時間である。
 - c. 月間の製造間接費予算は、変動費率 ¥300 固定費予算額 ¥290,000 である。
 - d. 当月の実際直接作業時間は1,430時間であった。
 - e. 当月の実際製造間接費発生額は ¥709,000 であった。
- (5) 保険料勘定の次月繰越高を求めなさい。

取 引

6月 2日 B製品（製造指図書#2）の注文を受け、素材300個を消費して製造を開始した。

6日 素材および工場消耗品を次のとおり買い入れ、代金は掛けとした。

素 材	600個	@ ¥2,850		¥1,710,000
工場消耗品	3,450〃	〃	20	¥ 69,000

9日 A製品（製造指図書#1）90個が完成した。なお、A製品の賃金予定消費高と製造間接費予定配賦高を、次の作業時間によって計算し、原価計算表に記入した。ただし、賃金予定消費高と製造間接費予定配賦高を計上する仕訳は、月末におこなっている。

製造指図書#1 270時間

13日 C製品（製造指図書#3）の注文を受け、素材500個を消費して製造を開始した。

30日 ① 工場消耗品の月末棚卸数量は750個であった。よって、消費高を計上した。（間接材料）

② 当月の賃金予定消費高を次の作業時間によって計上した。

製造指図書#1 270時間	製造指図書#2 690時間
製造指図書#3 470時間	間 接 作 業 150時間

③ 健康保険料の事業主負担分 ¥79,000 を計上した。

④ 当月の製造経費消費高を計上した。

電 力 料 当月支払高 ¥91,000 当月測定高 ¥93,000

保 険 料 1か月分

減価償却費 年間見積高 ¥2,964,000

⑤ 上記②の直接作業時間によって、製造間接費を予定配賦した。

⑥ 当月の賃金実際消費高 ¥1,911,800 を計上した。

⑦ 賃金の予定消費高と実際消費高との差額を、賃率差異勘定に振り替えた。

⑧ 製造間接費の予定配賦額と実際発生額との差額を、製造間接費配賦差異勘定に振り替えた。

第94回 簿記実務検定 1級 原価計算 [解答用紙]

1	借 方	貸 方
a		
b		
c		
d		
e		
f		

1 得点		2 得点		3 得点		4 得点		総得点	
---------	--	---------	--	---------	--	---------	--	-----	--

試 験 場 校	受 験 番 号

2

(1)

単純総合原価計算表

令和〇年〇月分

摘 要	素 材 費	加 工 費	合 計
材 料 費			
労 務 費			
経 費			
計			
月初仕掛品原価			
計			
月末仕掛品原価			
完 成 品 原 価			
完 成 品 数 量	4,000 kg	4,000 kg	4,000 kg
製品/kgあたりの原価	¥	¥	¥

(2)

¥

2
得点

3

(1)

a	≠
b	≠

(2)

a	≠
b	≠
c	個

(3)

a	≠
b	≠ ()
c	≠ ()

(4)

ア	≠
イ	≠
ウ	≠

3 得点	
----------------	--

4

(1)

	借 方	貸 方
6月/3日		

(2)

消 費 賃 金	
製 造	
6/ 1 前 月 繰 越	936,000
製 造 間 接 費	

(3) 製造指図書 # / 原 価 計 算 表

直接材料費	直接労務費	製造間接費	集 計	
			摘 要	金 額
630,000	216,000	90,000	直接材料費	
			直接労務費	
			製造間接費	
			製 造 原 価	
			完 成 品 数 量	個
			製 品 単 価	¥

(4) ¥ (借方・貸方)

※ (借方・貸方) のいずれかを○で囲むこと

(5) ¥

4	
得点	